

社会科（地理的分野）学習構想案

期 日
場 所
学 級
指導者

教諭

1 単元構想

単元名	第2章4節「北方領土・竹島と尖閣諸島—領土をめぐる問題をかかえる島々—(特設)」(東京書籍 P.26~27)		
単元の目標	<p>(1) 北方領土の位置や自然環境、歴史的背景を知る中で、北方領土が我が国固有の領土であり、現在は不法に占拠されていることを理解し、北方領土の問題を解決するには様々な問題があることを理解することができる。</p> <p>(2) 北方領土の問題について、様々な疑問や問いを持ちながら、自分たちにできることは何かを考え、表現することができる。</p> <p>(3) 北方領土の問題について、様々な疑問や問いを持ち、その解決に向けて主体的に追求している。</p>		
単元終了時に期待する生徒の姿			
北方領土問題について、様々な視点から疑問や問いを持ち、今の自分にできることを考え、北方領土問題解決に向けて追求し続けていこうとする生徒。			
指導計画と評価計画(2時間取扱い 本時2/2)			
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と発問	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	<p>【位置や分布】</p> <p>・北方領土とはどのような場所なのだろうか。</p>	<p>・北方領土の位置や名称、自然環境、歴史的背景について理解できる。(知・技)</p>
	単元を貫く課題：北方領土にはどのような問題があり、自分たちに何ができるのだろうか。		
課題追究	1 本時	<p>【場所】【地域】</p> <p>・北方領土問題を解決するために、自分にはどのようなことができるのだろうか。</p>	<p>・北方領土について関心を持ち、知りたいこと、疑問に思ったことを自分なりに考え、今の自分にできることを考えることができる。(態)(思・判・表)</p>

2 本実践のねらいと生徒の実態

本実践(単元)のねらい

本単元は、学習指導要領の地理的分野における「A 世界と日本の地域構成」の「(1)地域構成②日本の地域構成」にあたる単元である。ロシアによるウクライナ侵攻が始まって約1年経とうとしている。武力で現状を変えようとするロシアの行動は、対話による北方領土問題の解決を目指してきた元島民たちに深刻な影響を与えている。ロシアへの経済制裁を強める日本に対し、北方領土問題を含む平和条約交渉について「継続する意思はない」と中断を突きつけたり、ソ連末期の1991年の合意で始まった「ビザなし交流」や、元島民らを対象にした1999年からの「自由訪問」などの停止も決めたりしており、四島返還へ向けた交渉は停滞し、解決への道はみえなくなってしまう状況である。終戦時1万7291人いた元島民は、5474人になり(2022年3月末時点)、元島民の平均年齢は86.7歳となった今、返還への交渉が停滞することで、故郷の土を踏めないかもしれないと危機感を募らせている。

本実践では、「北方領土にはどのような問題があり、自分たちに何ができるのだろうか。」という単元を貫く課題を通して、北方領土問題に目を向け、これから先も、北方領土問題を自分事として考えていく態度を養うことを狙いとしている。北方領土の問題が元島民の方々だけの問題として考えるのではなく、日本全体で考えていかなければならない問題であり、風化させてはいけない事象である。

そこで、今回は、北方領土問題の概要を動画等を視聴することで知り、日本固有の領土でありながら、現在不法に占拠されていること、そして、元島民の方のインタビューなどを通して、返還に対する生徒たちの意識を高めていきたい。また、2,3年時の歴史・公民的分野でも継続して学習を重ねていくことで、最終的には平和的解決に向けて、どのような方法が良いか、またこれからの返還に向けたあるべき姿について考え続けていく生徒の育成を目指していきたい。

本單元における系統

小5「わが国の国土の様子」
国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解する。

中1「日本の地域構成」
北方領土について関心を持ち、知りたいこと、疑問に思ったことを自分なりに考え、今の自分にできることを考えよう。

中3「現代の日本と世界」
北方領土の領有権をめぐる日ロ間の対立を捉える学習を通して、北方領土返還がなぜ必要なのかを自分なりに説明しよう。

中3「地球社会と私たち」
北方領土問題の平和的な解決のために、どのような方法を取っていけば良いか考える。

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元の学習に関する意識の状況（1月13日実施 29人）

（単位：人）

調査内容	
○北方領土(北方四島)の名称を書いてください。	○択捉島・・・19人 ○色丹島・・・6人 ○国後島・・・4人 ○歯舞群島・・・11人 ○竹島・・・3人 ○与那国島・・・2人 ○沖ノ島島・・・2人 ○分からない・・・5人
○北方領土はどこの国と争っているのか。	○ロシア・・・26人 ○韓国・・・2人 ○アメリカ・・・1人
○北方領土でどのような問題が起きているか(と思うか)、知っていることを書きなさい。（自由記述）	○ロシアが自国の領土と言っている(日本とロシアどちらの領土なのか)・・・22人 ○ロシアの人が勝手に住んでいる・・・3人 ○日本の排他的経済水域が小さくなっている・・・2人 ○分からない・・・2人

■考察

5月の地理の授業「北方領土・竹島と尖閣諸島～領土をめぐる問題をかかえる島々～」で北方領土や竹島、尖閣諸島については学習しているが、北方四島全てを答えた生徒は3人しかおらず、定着するまでには至っていない。また、一つも書けない生徒もいるため、もう一度位置と名称については、丁寧に押さえる必要がある。また、領土問題を抱える国については、ほとんどの生徒がロシアと答えており、どこの国との問題なのかは理解している生徒が多い。更に、「どのような問題が起きているか」については、多くの生徒が「ロシアが不法に占拠している」という状況について書いているが、実際に起きている問題については知らない生徒が多いため、もう少し具体的に北方領土をめぐる問題について押さえる必要がある。

そこでまず、北方領土の位置と名称を確実に押さえ、掲示物等を利用して、全ての生徒に理解させる必要がある。また、授業の中で、実際に起きている問題や元島民の方々の声を紹介することで、生徒の中に多くの疑問や問いが生まれるようにしていきたい。そして、北方領土の問題を少しでも自分事として捉え、これからも北方領土問題の平和的解決に向けて、考え続ける生徒を育成していきたい。

3 指導に当たっての留意点

- 北方領土の位置や名称、自然環境などについて、ICTや掲示物等を用いて、視覚的に捉えさせる。
- 北方領土に住んでいた元島民の方のインタビュー動画や、北方領土問題についての啓発動画を視聴することで、生徒にとって、身近で分かりやすい内容にする。
- 反感情だけが高まっていくような指導にならないように、現在住んでいるロシアの人々の生活や思いにも触れ、様々な視点から考えられるようにする。

4 本時の学習①

(1) 目標 北方領土の位置や名称、自然環境、歴史的背景について知り、北方領土がどのような場所であるのかを理解することができる。(知識・技能)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ ①「2月7日は何の日か」考える。 ◇何かの記念日かな？	○ほとんどの生徒は何の日か分からないと思うので、「○○の日」ということで予想させる。 ○既習事項であるので、場所と名称については簡単に押さえる。
【学習課題】北方領土とはどのような場所なのだろうか？			
展開	35分	2 北方四島の概要について知る ①北海道(納沙布岬)からの距離や、北方四島の面積・面積や距離を比較しながら捉える。 ②自然環境・歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の自然環境を捉える。 ③人々の営み・・・戦前は日本人が住んでいたが、戦後、ロシアが不法に占拠し、日本人が住んでいないことを知る。 ④産業・・・水産業が盛んで、豊富な漁場が存在することを知る。 3 北方領土啓発用アニメーション「エトピリカ」を視聴し、どのような経緯で北方領土問題が現在まで続いているのかを知る	○面積や自然環境については、既習事項や生活経験をもとに予想させる。 ○世界三大漁場の一つに数えられるくらい、水産業が盛んであることを捉えさせる。 ○現在は日本人が住んでおらず、ロシアの人々が住んでいることを押さえる。 ○北方領土問題が、どのようにして起きたのか、その概要を捉えさせる。歴史的な事実については深くは押さえない。
終末	10分	4 動画を視聴した感想や、本時の授業で新たに知ったことを書く。 ○本時の学習を振り返り、次時の学習に繋げていく。	○北方領土問題の概要についてももう一度押さえる。

本時の評価

評価の観点	評価基準
知識・技能	A: 北方領土の位置や名称、自然環境、歴史的背景について知り、新たに学んだことを、複数の視点から記述することができる。
	B: 北方領土の位置や名称、自然環境、歴史的背景について知り、新たに学んだことを、一つの視点から記述することができる。

4 本時の学習②

(1) 目標 北方領土について関心を持ち、知りたいこと、疑問に思ったことを自分なりに考え、今の自分のできることを考えることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 前時の学習を振り返る ○北方四島の場所や名称について復習する。 【学習課題】 北方領土にはどのような問題があり、自分たちに何ができるのだろうか。	○既習事項であるので、場所と名称については簡単に押さえる。
展開	35分	2 北方四島の現在について知る ①現在の様子・・・現在、どのような問題が起きているのかを知る。(日本・ロシアの地図の違い等) ②現地研修に行ったときの写真等見て、返還に対する意識の強さを捉える。 3 元島民のインタビュー動画を視聴する。 (独) 北方領土問題対策協会(北対協)より ○元島民の方がどのような思いでいるのかをインタビュー動画をもとに考える。 【追究課題】 北方領土について、知りたいこと、疑問に思ったことは何かな？ また、今の自分に何ができることは何かな？ 4 北方領土について知りたいこと、疑問に思ったことを書き、今の自分に何ができるか考える。 ①個人で記述する。 ◇何でロシアは北方領土を返還したくないのか疑問に思った。 ◇どのような経緯でロシアが不法に占拠するようになったのかももっと詳しく知りたいと思った。 ◇これからは、もっと北方領土の問題に関心を持ち、調べていこうと思った。 ②班で交流する。 ③全体で確認する。	○日本側が入漁料を支払って漁を行っていること、また、かつてロシアによって拿捕され、死傷者が出た事実も知らせる。 ○元島民の思いを知り、不法な行為によって自分たちの土地が奪われた事実を捉えさせる。 ○歴史的な領土の変遷については、2年次以降の歴史的分野で扱うので、あくまでロシアによって不法に占拠されていること、及び「我が国固有の領土」であることを押さえる。 ○北方領土には、ロシアの人々が住んでおりその人たちの生活も考えないといけないことを押さえる。
終末	10分	5 本時の振り返りをする。 ○本時の学習を振り返り、これからの歴史・公民の学習で更に深めていくことを伝える。	○様々な取組がなされていることも紹介し、今後も興味・関心が持てる工夫を行っている。

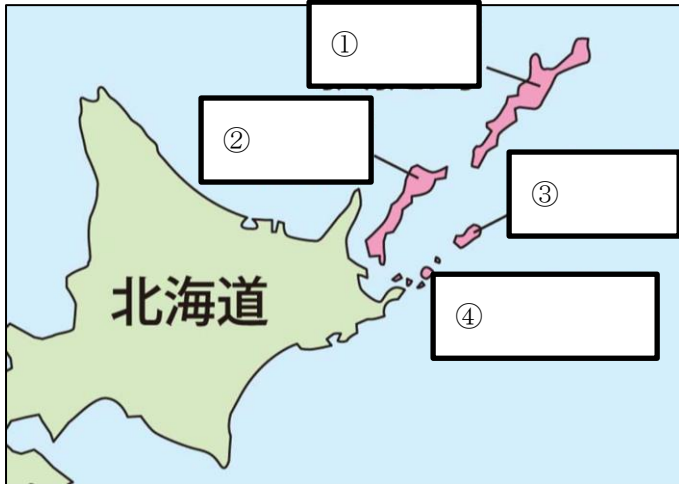
本時の評価

評価の観点	評価基準
主体的に学習に取り組む態度	A: 北方領土について、複数の視点・立場(ロシア、日本、歴史、地理)から自分なりの問いを持ち、自分にできることについて考え、表現している。
	B: 北方領土について、一つの視点・立場から自分なりの問いを持ち、自分にできることについて考え、表現している。

～北方領土について考える①～

めあて：

1 北方領土とは？



2 北方領土の概要

(1) 気候

①気温は海流の影響を受けて、寒暖の差が緩やかである。

②冬の平均気温はマイナス()くらいで、8月の平均気温は()くらいである。

(2) 自然

①北方領土の近海は、()であり、漁業資源の宝庫。

②

(3) 人口

①戦前、北方領土に住んでいた日本人の数は()人。

②現在、北方領土に住んでいる日本人の数は()人。

3 北方領土問題とは？

日本がポツダム宣言を受諾し、降伏をしたあとに、ソ連が、一度も外国の領土になったことのないわが国固有の領土である、北方四島に侵攻し、その後、一方的にソ連領に「編入」し、全ての日本人島民を強制退去させ、現在もなお、法的な根拠もなく、占拠し続けている問題

3 本時の授業の感想

～北方領土について考える②～

めあて：

- 本時の授業を通して、新たに知ったこと、疑問に思ったことは何ですか？

また、これからの自分に何ができるか、あなたの考えを書きなさい。
